

梅雨期（6月11日以降）の大雨について

1 気象概要

梅雨前線の活動により、6月17日から九州南部で記録的な大雨となった。また、6月25日から四国、九州北部等でも大雨となり、7月3日には九州南部で1時間に100ミリ以上の大雨となった。7月10日からは九州北部、中国、中部地方を中心に広い範囲で大雨が続いた。さらに7月16日には、広島県庄原市において1時間64ミリの大雨となった。

2 主な災害の状況（9月9日現在、消防庁情報）

（1）人的被害：死者16名、行方不明5名

【7月10日からの大雨による被害】（広島県、岐阜県、島根県等）

人的被害：死者13名、行方不明4名

【7月3日からの大雨による被害】（鹿児島県、宮崎県、福島県）

人的被害：死者3名、行方不明1名

（2）治山関係被害

全国で1,307箇所、被害額26,003百万円の山地災害が発生。被害の多い県は次のとおり。

- ・長野県：100箇所 被害額3,777百万円
- ・広島県：291箇所 被害額3,681百万円
- ・鹿児島県：166箇所 被害額3,118百万円
- ・宮崎県：43箇所 被害額2,311百万円

3 対応状況

- ・林野庁の担当官を鹿児島県へ派遣（7月5日）
- ・九州森林管理局が、宮崎県及び鹿児島県においてヘリによる現地調査を実施（7月7日～8日）
- ・中部森林管理局が、長野県においてヘリによる現地調査を実施（7月9日～10日）
- ・林野庁の担当官を広島県へ派遣（7月15日）
- ・林野庁の担当官を広島県へ派遣（7月17日～18日）
- ・近畿中国森林管理局が、広島県においてヘリによる現地調査を実施（7月19日）
- ・九州森林管理局が、福岡県及び佐賀県においてヘリによる現地調査を実施（7月19日）
- ・広島県からの要請を踏まえ、森林総研の専門家等を広島県へ派遣し、今後の対応について助言（7月20日～21日）
- ・広島県への農林水産大臣現地視察に林野庁森林整備部長等を派遣（7月26日）
- ・（衆）災害対策特別委員会の鹿児島県への被害状況等調査に、林野庁山地災害対策室長を派遣（7月28日）
- ・これまでに、長野県ほか20県において126箇所、事業費5,504百万円について災害関連緊急事業を採択
- ・これまでに、岐阜県ほか6県において8箇所、工事費299百万円について治山施設災害復旧事業を採択